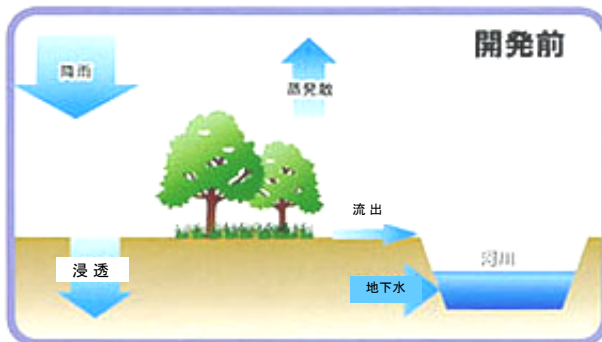


クイズ「雨に強いまちづくり」！！

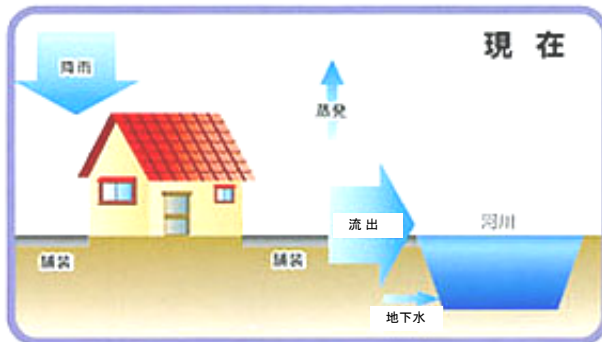


水害を防止するには どうすればいいの？

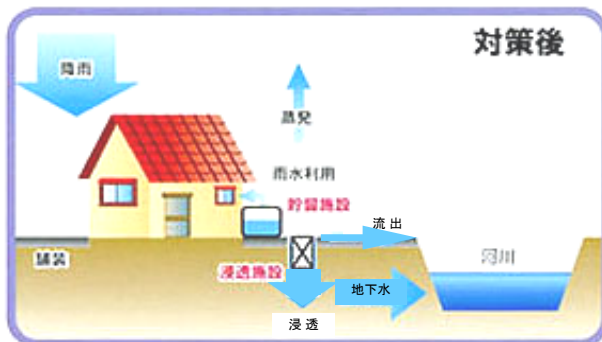
河川改修や調整池の整備を進めることはもちろんのこと、雨水を地中に浸透させたり、一時的に貯留して徐々に流すことにより、少しでも自然の循環システムに近づけ、下水道や河川に流出する雨水をできるだけ抑制することが必要です。



市街化が進む前は、降った雨の多くが地中へ浸透し、その後、木の葉や地表面から蒸発したり、長い時間をかけて川や泉に湧き出たりしていたため、地表から川に流れ込む表面流出量は抑えられていました。



市街化が進むと、屋根や舗装など、雨が浸透しにくい場所が増え、短時間に地表から川に流れ込む表面流出量が増加し、水害が発生しやすくなります。また、地中に浸透する水の量が減るため、晴れた日が続くと川の流量が減ったり、湧き水がかれたりすることが多くなります。



雨水貯留浸透施設による対策を進めると、降雨時の表面流出量を抑制し水害を防止することができます。

地中に浸透する水の量が増えるため、晴れた日が続いても川の流量が減ったり湧き水がかれたりすることが少なくなります。

雨水貯留浸透施設 ってなに？

雨水貯留浸透施設は、雨水を一時的に貯めたり地下に浸透させたりして、河川への雨水流出量を抑制するものです。

雨水貯留施設には、公園や駐車場などの地表面に貯留するタイプと、建物の地下に貯留するタイプがあります。貯留した雨水をポンプで汲み上げて散水等の雑用水として利用することも出来ます。

雨水浸透施設には、浸透ますや浸透トレンチ、透水性の舗装などの種類があり、水害を防止すると共に地下水の涵養にも効果があります。

